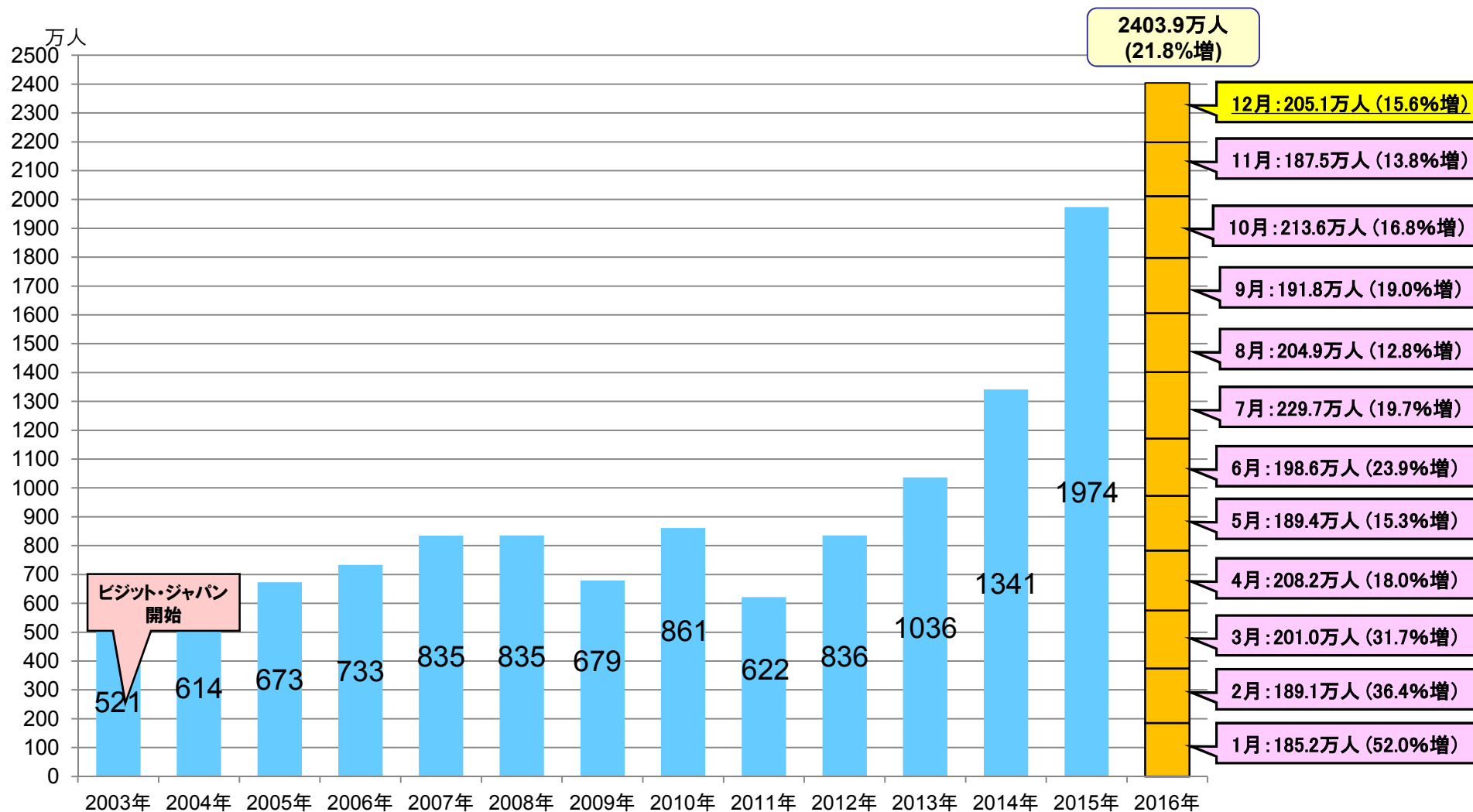


地方空港におけるインバウンドの概況

訪日外国人旅行者数の推移

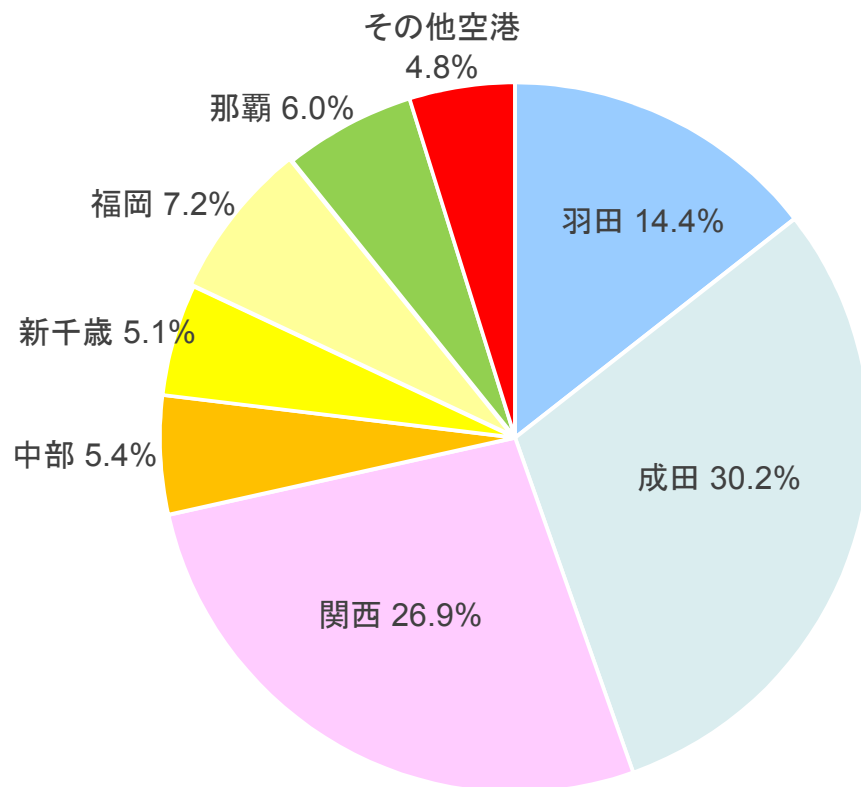


注) 2015年の値は確定値、2016年1～10月の値は暫定値、2016年11月～12月の値は推計値、%は対前年(2015年)同月比
 出典: JNTO(日本政府観光局)

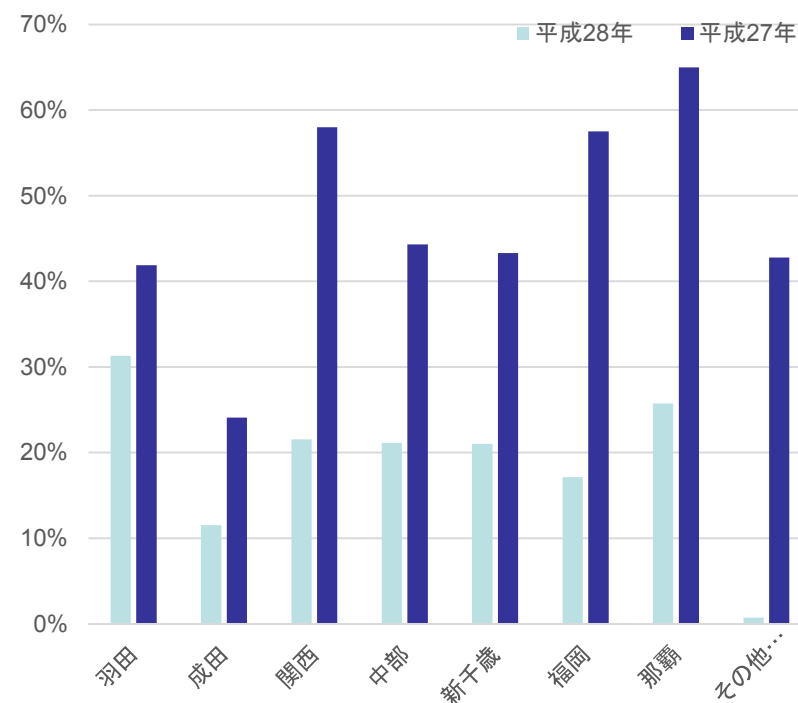
空港別のシェア・伸び率(2016年)

- 空港からの入国外国人のうち、
 - ・首都圏空港(羽田、成田)で約45%、
 - ・三大都市圏空港(首都圏+関空、中部)で約8割、
 - ・主要7空港(三大都市圏+新千歳、福岡、那覇)で約95% のシェア。
- 主要7空港はいずれも10~30%の伸びを記録したが、前年に比べ、伸び率は低下。

空港別シェア(2016年:2,262万人)



空港別伸び率(対前年同期比)



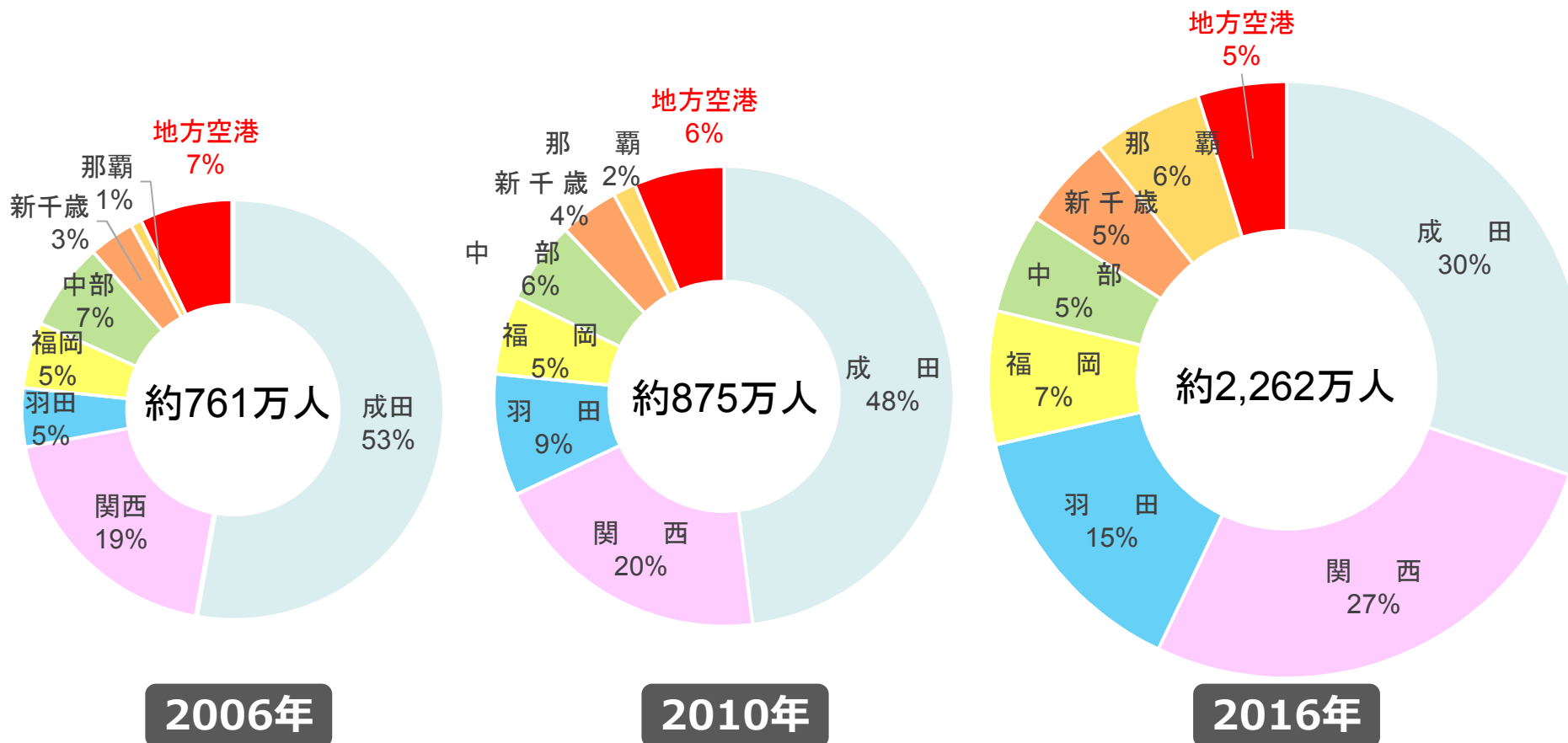
(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年12月分は速報値)

※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

入国外国人人数 空港別割合(2006年・2010年・2016年)

※地方空港＝主要7空港(羽田、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇)を除く空港

- インバウンドが拡大するなかで、関西空港及び羽田空港のシェアが大きく拡大。
- 地方空港のシェアは、インバウンドが拡大するこの10年で、わずかながら低下。



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年12月分は速報値)

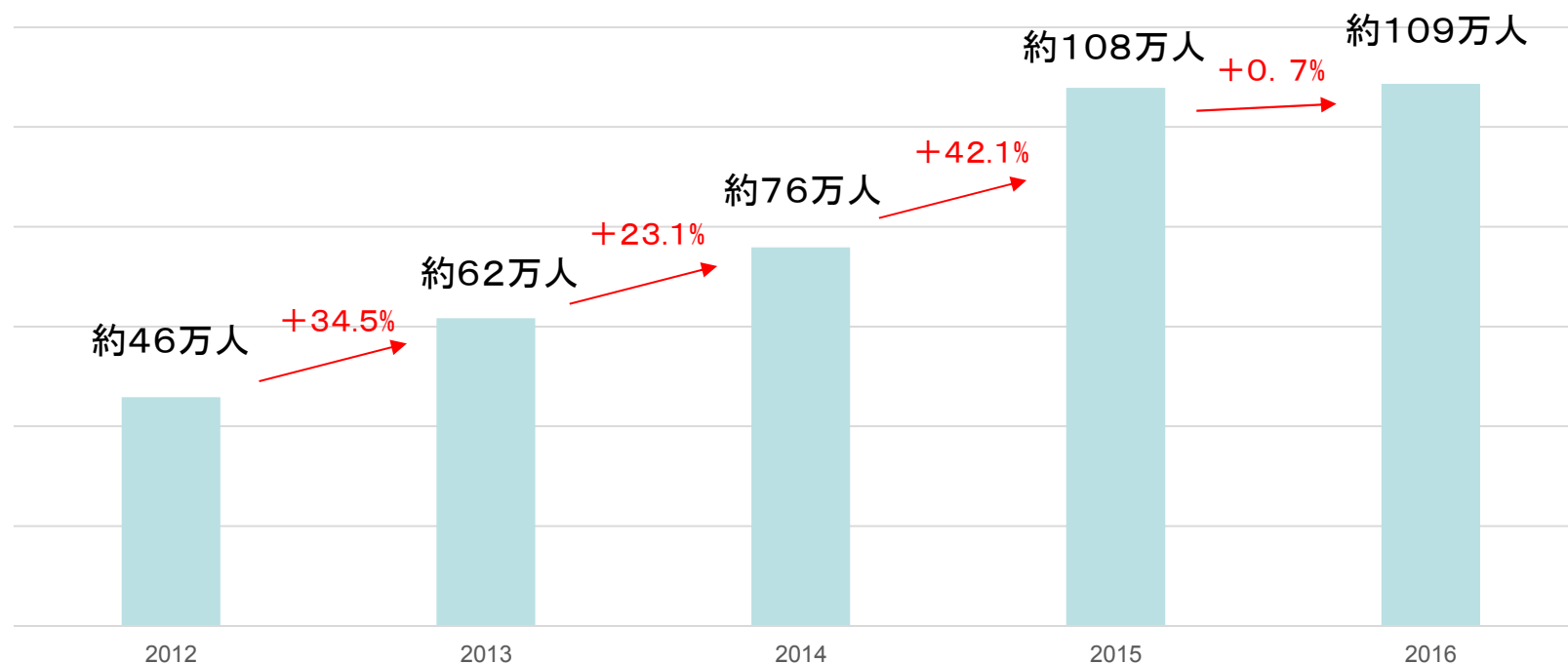
※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

地方空港(※)の入国外国人人数(推移)

※地方空港＝主要7空港(羽田、成田、関空、中部、新千歳、福岡、那覇)を除く空港

- 地方空港の入国外国人人数は2012年～15年の3年間で約2.4倍。
- 一方、2016年は2015年までの増加が一服し、伸び率は横ばい。

地方空港の入国外国人人数(推移)



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年12月分は速報値)

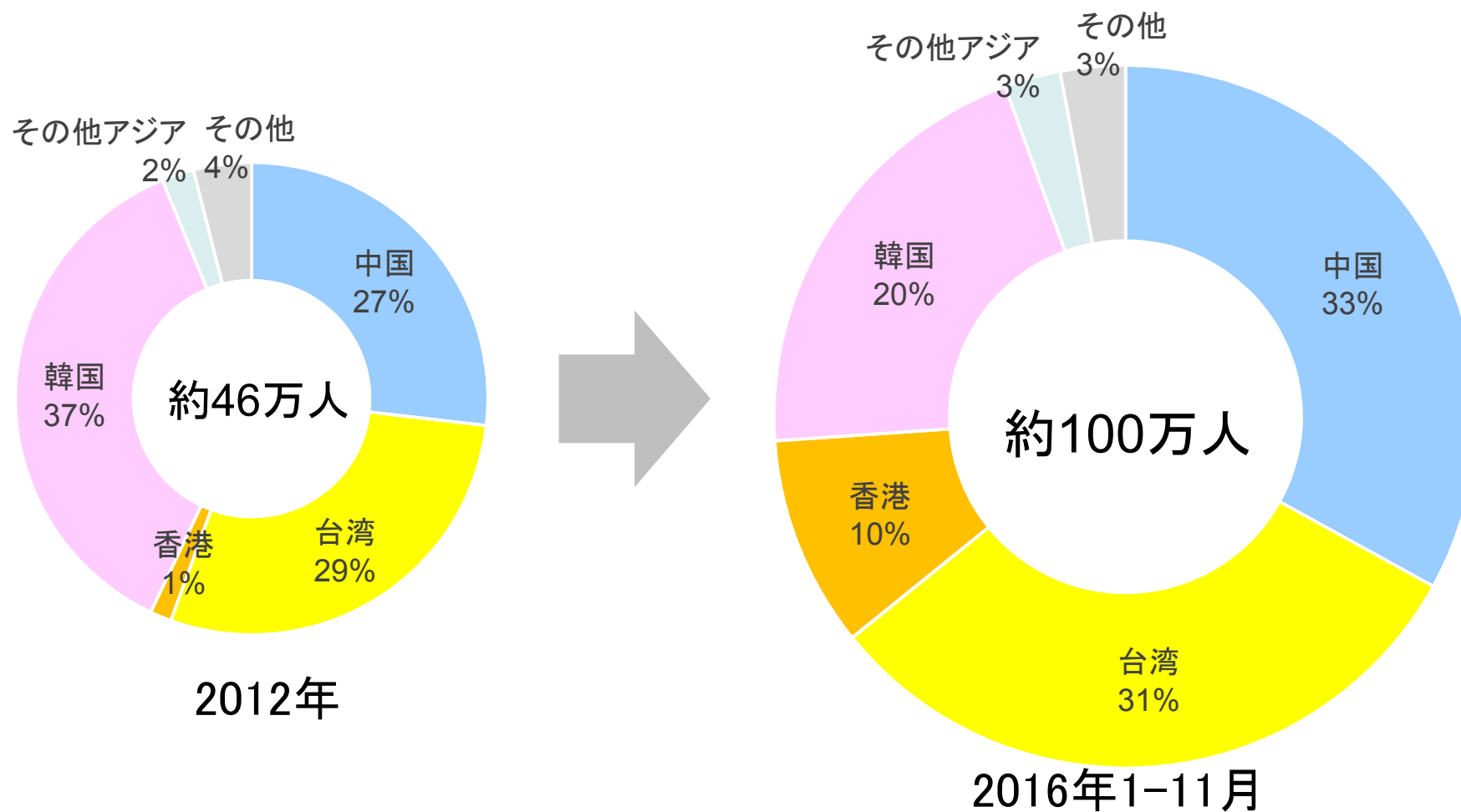
(参考)国際定期便の就航状況 ※期首ベース

2016年夏期: **234便**(前年同期比**113.5%**)

2016年冬期: **223便**(前年同期比**96.6%**)

地方空港の入国外国人数(市場別動向)

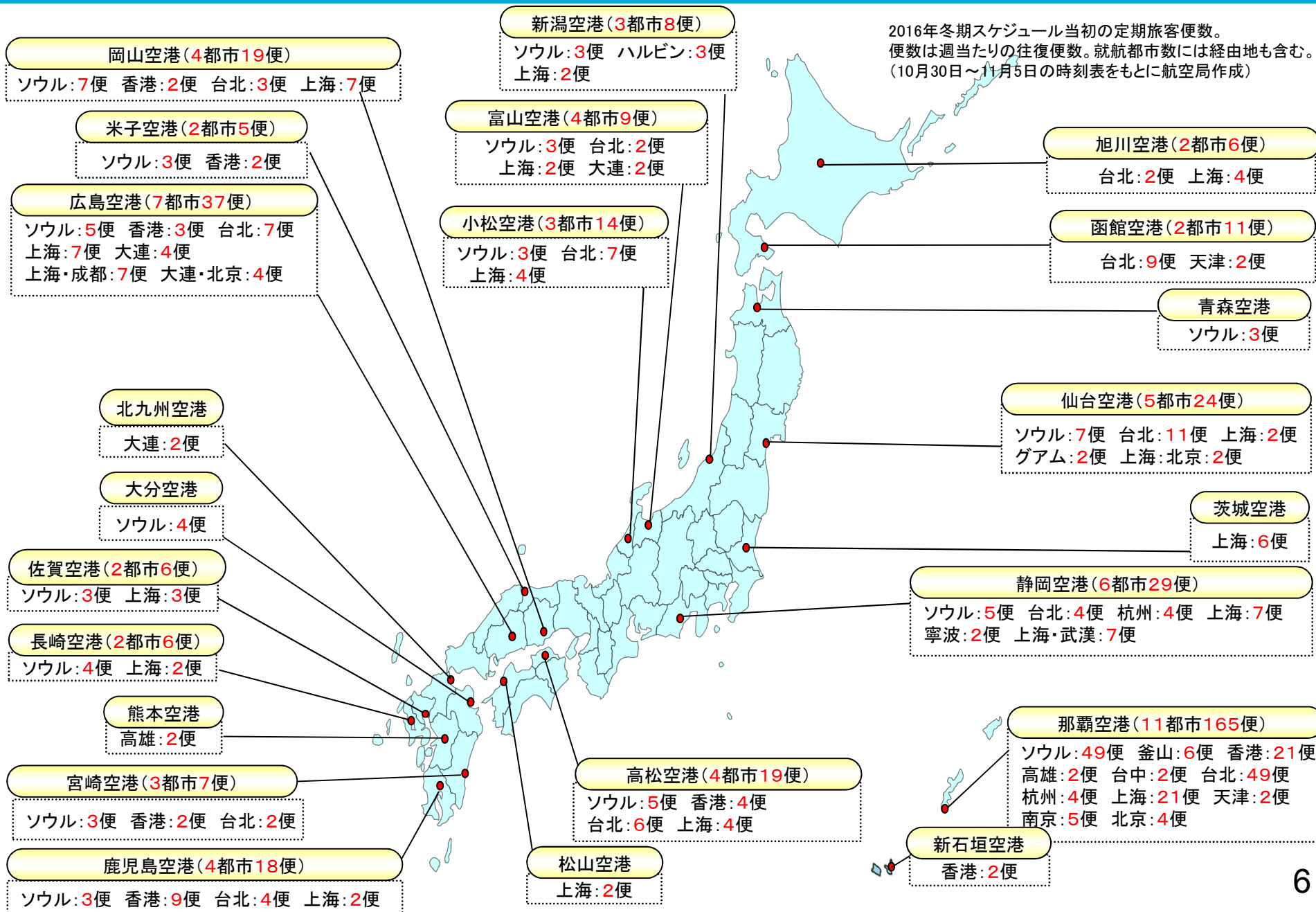
- 地方空港は、東アジア4市場(中国、台湾、香港、韓国)からの外国人が約95%。
- 近年は、韓国のシェアが低下し、香港のシェアが拡大。



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年については、1~11月分を集計。)
 ※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。

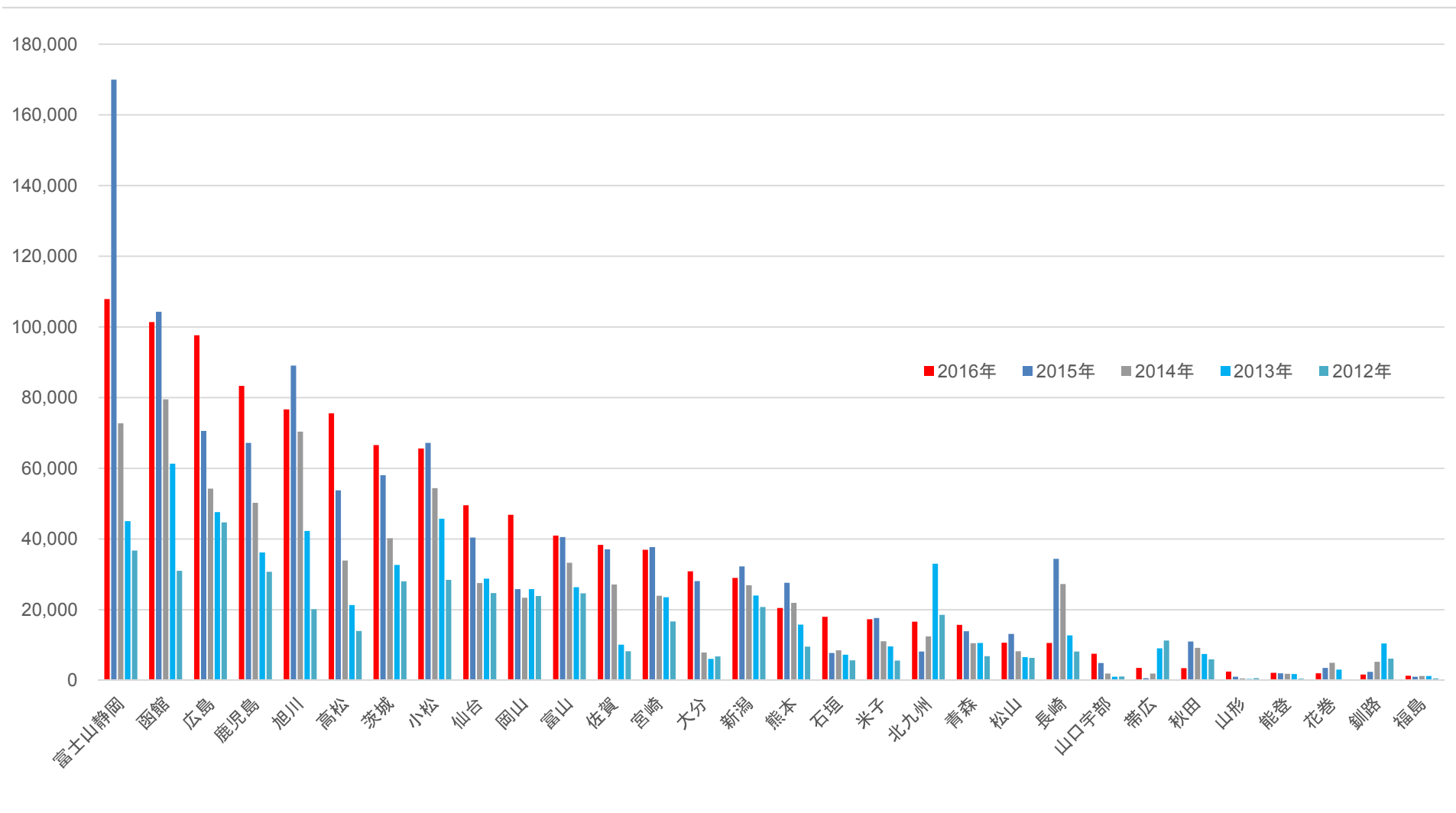
地方空港における国際定期旅客便(2016年冬)

2016年冬期スケジュール当初の定期旅客便数。
便数は週当たりの往復便数。就航都市数には経由地も含む。
(10月30日～11月5日の時刻表をもとに航空局作成)



地方空港の入国外国人人数(空港別・推移)

○空港別の入国外国人人数は、一部減少に転じる年がありつつ、いずれの空港も増加基調。

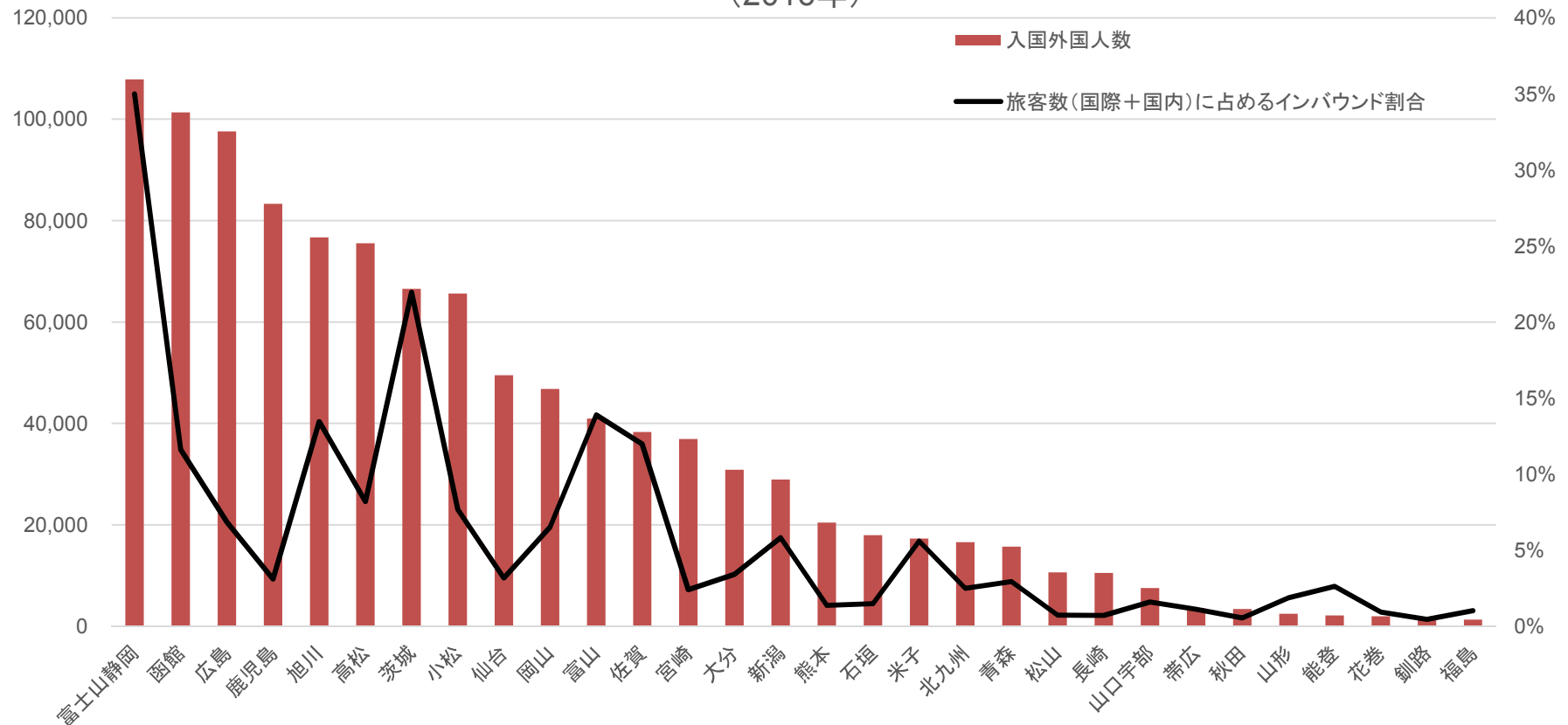


出典) 法務省「出入国管理統計」より、航空局作成

注) 地方空港のうち、2016年の入国外国人人数1000人以上の空港を対象

○空港利用者全体に占めるインバウンド割合は空港によって異なる。

空港別入国外国人数と旅客数(国内+国際)に占める割合
(2016年)



出典) 航空局「空港管理状況調書」及び法務省「出入国管理統計」より、航空局作成

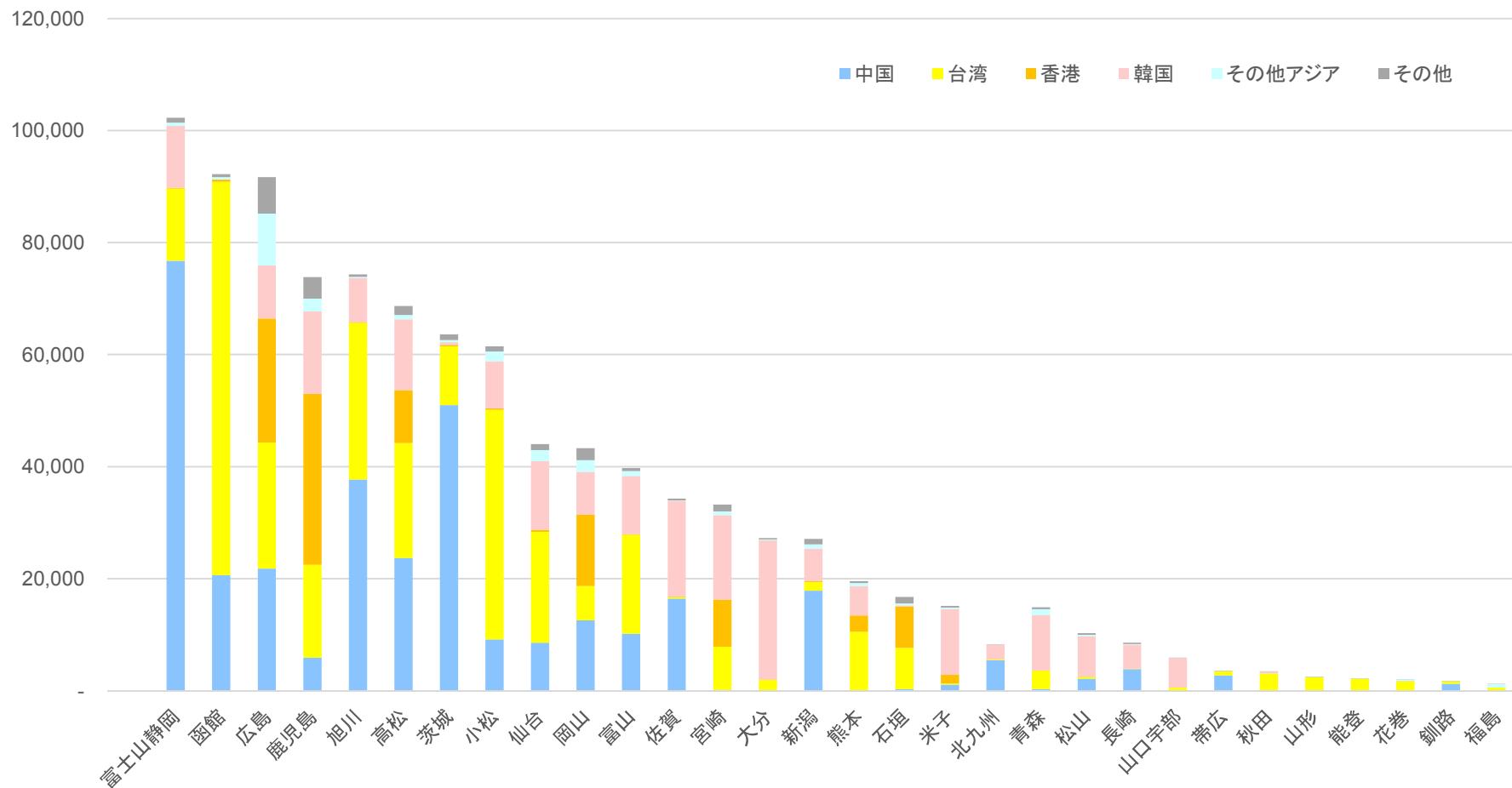
注) 地方空港のうち、2016年の入国外国人数1000人以上の空港を対象

注) インバウンド割合は異なる統計の組み合わせのため、便宜的な算出値にすぎない。

地方空港別の入国外国人人数(国別・2016年)

- 入国外国人数の多い地方空港では中国・台湾からの入国者数が多い
- 韓国からの入国者数はばらつきが少ない一方、香港からの入国は西日本に地理的偏りがある

地方空港別の入国外国人の国別割合



(出典)法務省「出入国管理統計」より航空局作成(2016年1~11月分)

※なお、出入国管理統計の数値はJNTO公表の「訪日外客数」とは集計方法が異なる為一致しない。